

2025 年 4 月 18 日

静岡県労働研究所 副理事長 林 克

3 月末にミャンマーの第二の都市、マンダレー付近を震源とするマグニチュード 7.7 の地震が起きました。地震はプレート境界の断層に沿って広範囲に及んでいます。4 月に入り、静岡では毎週日曜日に在日ミャンマー人の若者グループが、私も参加する日本人の支援グループとともに募金活動を行っています。現在 3,700 人を超える犠牲者が出ていると報道されていますが、これはあくまで軍部が発表した数字で実相を反映していません。クーデターを起こして民主的政府を追放したミャンマー軍部は、国土の約 25%しか掌握できていないにもかかわらず、国際的援助を独占して民主派・少数民族の地域には送っていないという国際的批判が強まっています。それどころか救援に専念するどころではなく、これまでの劣勢を、これをテコに攻勢を強めるという憶測も生まれています。

実は静岡県とミャンマーは歴史的につながりがあるところ、静岡労働局の「外国人雇用状況」においても、このところの伸びが目立ち、対前年増加率が高い国のトップとなっています。ミャンマーにおいて劣勢の軍部が若者の徴兵を進め、それへの忌避から海外へ働きに出るとも言われています。

増えているのはミャンマー人だけではありません。静岡県への外国人労働者はコロナで一時鈍化したものの、12 年連続の増加で 81,560 人となり、全国で 7 番目となりました。人口に比して外国人数の多い県です。身分にもとづく在留資格が全体の半分以上を占め、技能実習、専門的・技術的分野の在留資格がおのおの 2 割という状況です。8 年前に創設された特定技能の労働者は 1 割に達していません。

4 月 15 日の静岡新聞に「転入増えても少子化打撃」と総務省の人口推計を報じていますが、人手不足の中、自治体への人口流入の中で外国人労働者の割合が増えています。転入転出を扱う人口移動報告に外国人も組み入れられましたが、外国人を含むかどうかで見出しが変わります。1 月の 2024 年の速報値の報告では日本人だけを取り上げて、静岡県は 7,271 人の転出超過、若者が首都圏に流出して全国ワースト 4 位としましたが、今回の人口推計では外国人が転入超過で、労働力不足を外国人が流入して補っています。極端な少子化、人口の急減の中で、外国人が重要な働き手となる反面、90 年代から非正規労働者が急増して日本の賃金が上がらない要因となったことが繰り返されようとしています。

それに加えて、埼玉県で行われるクルド人に対する理不尽な排斥デモ、不気味です。日本は明治以来、欧米人には媚びへつらい、在日朝鮮韓国人、中国人を差別してきた歴史があります。かつて上野千鶴子氏は「(日本は排他主義の歴史で多文化共生には耐えられず)みんな平等に、緩やかに貧しくなっていけばいい」と警鐘を鳴らしているのですが、そうならないためにどうしたらいいのでしょうか。

明治の初め、福沢諭吉は「脱亜入欧」を唱え、アジア人を見下す歴史を歩んできました。

戦争の反省とともに、それを卒業する時が来ています。